

鳥影

泉鏡太郎

青空文庫

あめ 雨の晴れた朝である。修善寺の温泉宿、——館の家族の一人と、家内が桂
 は 川の一本橋向うの花畑へ連立つて、次手に同家の控の別荘——あき屋である——
 を見せて貰つた、と言つて話した。花畑は渡つてからだだが、橋を渡返して館の
 外まはりを 歩いて行く。……去年の春ごろまでは、樹蔭の徑で、戸田街道の表通り
 へ土地の人たちも勝手に通行したのだけれども、いまは橋際に木戸が出来て、館の構
 内に成つた。もとの徑を、おも屋と隔てて広い空地があつて、追つては庭に造るのださ
 うで、立樹の間に彼方此方、石が澤山に引込んである。川に添つて古い水車小屋また茅
 葺の小屋もある。別荘はずつと其の奥の樹深い中に建つて居るのを、私は心づもり
 知つて居る。總二階十疊に八疊の縁で、階下は七間まで敷へて広い。雨戸をす
 つかり明けて見せられたが、裏の山、前の流れ、まことに眺望が好いと言ふ。……借りる
 つもりか、さては近頃工面がいゝななぞとおせきなさるまじく。京の金閣寺をござらう
 じましたか、で見ぶつをしたばかり。唄の床柱ではないが、別荘の庭は、垣根つゞ
 きに南天の林と云ひたいくらゐ、一面輝くが如き紅顆を燭して、水晶の火のや
 うださうで、奥の濡縁を先に古池が一つ、中に平な苔錆びた石がある。

其處で美しい鳥を見た。

二羽。

「……それは綺麗な鳥なんですよ、背中が青いつたつて、唯青いんぢやあないんです、何とも言へません。胸の處からぼつと紅くつてね、長い嘴をして居るんです、向合つて。……其處いらが靜で、誰も驚かさないと見えて、私たちを見ても、遁げないんですよ。縁からぢき其處に——最も、あゝ綺麗な鳥が、と云つて、雨戸にも密と加減はしましたけれど。……何と云ふ鳥でせうね。内の雀よりはずつと大きくつて、鳩よりは、すらりと痩せて小形な。」

と、あゝ、およしなされば可いのに、借りものの籠に、折つて來たしぼりの山茶花と白の小菊を突込んで、をかしく葉を撮んだり、枝を吹いたり、飴細工ではあるまいし……對をなすものの人からも丁ど可い。……朝餉を済ますと、立處に床を取直して、勿體ない小春のお天氣に、水を二階まで輝かす日當りのまぶしさに、硝子戸と障子をしめて、長々と搔卷した、これ此の安湯治客、得意の處。

「宿の方も知らないつて言ふんですがね、ちよいと彼處で見ると、いつも、つがひで洒落れてるわね。何でせう。」

「おやく、鈇はぎみの音おとをさせた。あつかましい。が、此これにも似合にあはう……川柳せんりうの横本よこほんを枕まくらと斜はすつかけに仰あふぎながら、

「あるきもしない、不精ぶしやうだ不精ぶしやうだと云いふけれど、居ゐながらにして知しつてゐるぜ。かはせみさ、それは。」

「あゝ。」

「字じに顯あらはすと、些ちと畫わくが多い、翡翠ひすゐとかいてね、お前まへたち……たちぢやあ他ほか様さまへ失しつれ禮いだ……お前まへなぞが欲ほしがる珠たまとおんなじだ。」

と云いつて、おねだんのもの何なにも挿ささない、うしろ向むきの圓鬘まるまげを見みた。

私わたしは廣袖ひろそでの襟えりを合あはせて起おきた。

鴛鴦うせんは濃のう艶えんでお睦むつまじい、が、聞きいたばかりで、翡翠かほせみは凄麗せいらいにして、其その所帶しよたいは意氣いきである。見みたくなつた。

私わたしは狩獵しゆれふを知らしない。が、獲えものでない、山やまの幸さちは、其その姿すがたを見み、その、もの語がたりを聞きくのにある、と、思おもひつゝ。……

昭和三年一月

青空文庫情報

底本：「鏡花全集 卷二十七」岩波書店

1942（昭和17）年10月20日第1刷発行

1988（昭和63）年11月2日第3刷発行

※題名の下にあつた年代の注を、最後に移しました。

※表題は底本では、「鳥影《とりかげ》」とルビがついています。

入力：門田裕志

校正：川山隆

2011年8月6日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

鳥影

泉鏡太郎

2020年 7月18日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>